

# S&P500が円ベースで年初来プラス転換



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① S&P500が円ベースで年初来プラスに

円安基調が継続していることに加え、ここにきて米国株が戻り歩調を強めていることもあり、円ベースのS&P500種株価指数の年初来パフォーマンスがプラスに転じてきました（右上図）。8月5日現在、同指数の米ドルベースの年初来騰落率は▲13%と大きく下落していますが、年初からみて円安が進んでいることもあり、円ベースでみた同指数は再び史上最高値を目指す展開となるなど、TOPIX（東証株価指数）を上回る動きとなっています。

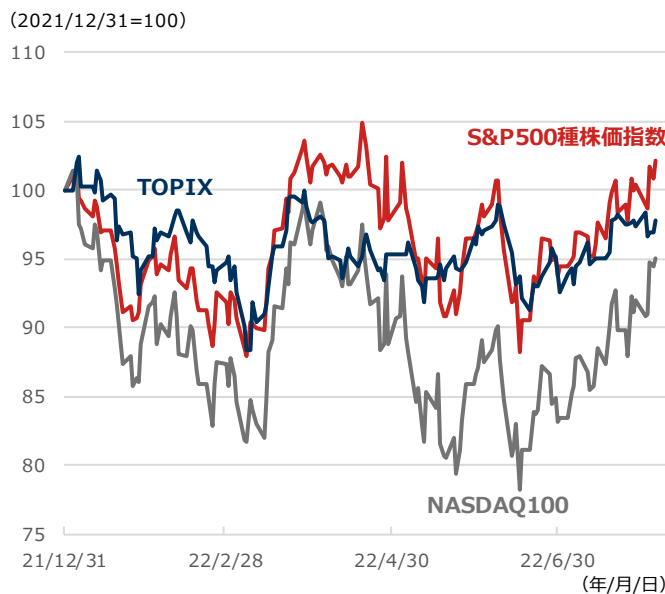
同様にハイテク株主体のNASDAQ100も米ドルベースでは年初来騰落率が▲19%となっているものの、円ベースでは▲5%の下落に留まっており、年初来騰落率のプラス転換が近づいてきました（同図）。

## ポイント② 市場心理の落ち着きもプラス材料

FRB（米連邦準備制度理事会）が金融引き締め姿勢を強めている一方、日銀は金融緩和姿勢を維持しており、こうした金融政策の方向性の違いを背景に円安基調は続く可能性があります。もちろん、今後FRBが利上げペースを緩めれば、日米金利差の縮小などを通じ、一時的に円高に振れるリスクもあります。もっとも、FRBの利上げペースが緩み、その後金融緩和に転じることがあっても、日米政策金利でみた米国の相対的な金利の高さは続くと考えられ、円高方向への動きは限定的と考えられます。

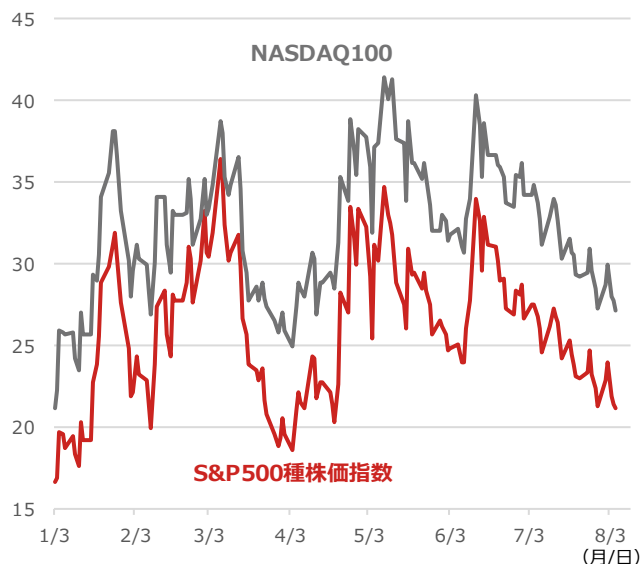
株価の変動率を示す米VIX指数（ボラティリティ・インデックス、別名恐怖指数）は、低下基調を辿るなど、市場心理は改善しています（右下図）。米企業決算が想定以上に良好だったこともあり、米国株の戻りに対する期待が高まっていることから、円ベースの米国株は史上最高値更新を試す展開が想定されます。

日米主要株価指数（円ベース）



期間：2021年12月31日～2022年8月5日、日次  
・TOPIXの2021年12月31日分は前日の30日の株価（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500とNASDAQ100の米VIX指数



期間：2022年1月3日～2022年8月5日、日次  
・VIX指数とは米シカゴ・オプション取引所が、S&P500種株価指数やNASDAQ100を対象とするオプション取引の変動率を元に算出、公表している指数。一般的に同指数の数値が高いほど、投資家の先行き不透明感が強いとされる。（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。